

# 道院だより

No.9

金剛禪総本山少林寺 埼玉北浦和道院

2009年 8月25日(火) 発行

文責 道院長代務 梶谷憲皇

## 合掌

道院の一大イベントである合宿が、無事に終了しました。2泊3日の合宿は、一般、年少ともにとっても楽しみにしている行事です。当初、例年利用している「榛名高原学校」が、ダブルブッキングのため、利用できませんでしたので、今年は中止にしようかと考えておりましたが、齋藤さんが、よい場所を見つけてきてくれましたので、今年も予定通り行うことができました。ありがとうございます。また、合宿へ、保護者の皆さまからたくさんのおし入れをいただきました。紙面を借りましてお礼を申し上げます。

合宿には、幸手道院、埼玉大学、日本工業大学の拳士たちも一緒に参加し、一緒に汗を流しました。小学生から、中学生、大学生、大人と、老若男女関係なく、互いに技を掛けあい、教えあい、共に同じ技を学びあえる。これが少林寺拳法の素晴らしさだと思います。宿の御主人も、いろいろな年齢層の集まりに驚いていました。

今回の合宿では、全体練習、クラス別練習、いろいろな指導者が、かわるがわる指導するように組みました。人は、体格も、力も、考え方もそれぞれ違います。同じ少林寺拳法でも、高段者になるに従い、自分にあった体の動かし方や、技のかけ方を身に付けていきます。また、技の、重視する視点や指導の仕方も違ってきます。ですから、習う方も、いろいろな指導者から、いろいろな指導を受けることも大切だと思います。それともう一つ、これには大切な意味があります。

「なぜ、道着は白いのか。」ということです。これは、法話の中で話しましたが、私たち拳士が、指導を受けるとき、心構えとして持つておかなければいけないことは、「初生の赤子として、真純単一にこの修行に専念す。」ということです。つまり、指導を受けるときは、その時その時の指導者の指導を、「純白の心」で受けるということです。素直な心ということです。それを象徴しているのが、白い道着なのだろうと思うのです。指導者に疑問を持ったり、信用しなかったり、尊敬の念を持っていないと、せっかくの指導も、自分の中にまっすぐに入ってきません。これは少林寺拳法に限ったことではありません。学校や社会でも同じことです。学校の先生を信用していなければ、やはり、その先生の言うことも素直に聞くことができないでしょう。先輩後輩でも同じことです。もちろん、指導者、先生、先輩が、尊敬に値する資質を備えていることが大切で、当然、上に立つ者は、常にそう努力することは言うまでもありませんが、まず、習う者、教えを乞う者の姿勢として、素直さということが大切になのだと思います。そして、この素直な姿勢を持つ人は、技術も、いろいろな力も、しっかり伸びていくのではないかと思います。そういう意味で、いろいろな指導者から指導を受けるということは大切なのだと思うのです。

最後に、今回の合宿に指導者として参加してもらった拳士たちも、参加費は全て自費です。少林寺拳法の指導をさせていただいているという意識で、すべて修行として考えてくれています。

指導を受ける拳士は、指導されることを当然と考えることなく、一緒に修行しているという意識を持ち、指導してもらっていることに感謝し、一生懸命に練習に取り組んでほしいと思います。それが、指導者への何よりの感謝の気持ちのお返しです。互いに感謝しあい、押し合う精神、合掌礼の精神です。

結手

## 連絡事項

### 1. 8月28日練習場所変更について

衆院選のため、28日の体育館の使用ができませんので、下記の通り練習場所を変更します。ご確認ください。

場所 下落合公民館

